

## 7 「社会教育関係者」は、これから、どのようなスクラムを組んでいけばよいのか?!

堂本 彰夫

### (1) まずは、現状（その後）を俯瞰してみると！そこには、どのような問題（課題？）が浮遊しているのか？

またしても久し振りではあるが、ここで、改めて（ある意味再三再四ではあるが？苦笑？）、各地で日々奮闘されている多くの社会教育関係者が、どのようなスクラムを組めばよいのかということ、最近の私の受け止め方（期待される現実的可能性？）を重ね合わせながら、少し詳しく書き留めておきたい！ただし、そうは言っても、今の私は、全国的な動向を具に知っているわけではないので（その努力もしていない？）、ここで繰り広げる論考は、的を外しているかもしれないとも思う?!だが、少なくとも私が居住している〇県の状況、そして、そこで出会う関係者（の一部）からの情報提供・感触からすれば、少しは妥当性があるものとも思う?!いずれにしても、そこに浮遊しているのは、教育委員会事務局における社会教育行政の元気の無さ・存在意義の下降（部署の縮小や職員数の削減等）や関係施設（とりわけ青少年教育施設）・団体等の困窮や低迷である！だから、当然、そこでの事業予算や規模の縮小が懸念されるということであるが、それに伴う職員・スタッフの意気阻喪や離脱が、私としてみれば、真に悔しくもあり、哀しくもあるということである！

尤も、そうしたことは、何も今に始まったことではなく、この間長らく続いてきた傾向でもあるので（これは、全国的にも言えることである？ある県を除けば？）、ことさら言うべきことではないのかもしれない?!しかし、そのツケや悪影響が、今やのっぴきならないところまで来ていることを考慮すれば（個人主義の横行・地域共同体の衰退、子ども達の生育環境の劣化・体験機会の偏在等）、やはり何とかしなければいけない！そして、それがまた、学校（教師）の過重負担（やるべき事の増大・心理的圧迫等）を増大させてきたわけでもある?!だから、そこでは、「働き方改革」とか言われているが、それは、ただ学校教育だけの問題（課題）ではない！まさに、学校教育と社会教育の双方にまたがる、途轍もなく大きな課題だということである！私は、これを、「教育全体の課題（危機?）」と捉えているが、このままでは、どちらもつぶれてしまう? 「ことなかれ主義」（自分達さえよければ、当面それでよい?）がますます進行し、そして、一方で、それこそ「個々人の自由」「自己責任」という名の下に、地域全体がバラバラとなる?!

そんな中、繰り返し主張しているように、全国的な取り組みとして、CSや地域学校協働本部事業というものが導入されてきている！それぞれ、その成果を発揮しているところもあるようであるが、上記したような課題（危機?）に、十分に応えられるものとなっているかは、かなり怪しい?だが、その両者の一体的運用（まさにこれは、「学校教育と社会教育の連携・協力」（→「教育協働」）の最新・最強形態とも言える?）を行っているところは、その意義と可能性（否、成果!）を大いに発揮しているようでもある（伝聞や学会発表事例による!）!とは言え、まだまだ、そうした一体的運用は、数的には少ない状況にあり（県によって多少状況は異なるが!〇県の場合は、それが顕著?）、さらなる進展が見込まれることは言うまでもない!しかし、それには、新たな視点ややり方の工夫が求められる!でも、ある意味、現場は、それどころではないとも言える?!日々をやり過ごすだけで、精一杯ということでもある?!

### (2) 「社会教育士」、「生涯学習コーディネーター」等の存在！彼らの思いと力の結集が大きな可能性をもつ?!

そこで注目されるのが、これも、再三主張してきているが、それは、ある人達への期待と、それを支援・鼓舞する積極的なしくみづくりと効果的な配置である!それが、各種の「コーディネーター」と呼ばれる（必ずしも、名称としてはそうでなくとも!）人達である!彼/彼女らは、学校と地域（社会教育）の双方を結ぶ、言わば「結節点」としての機能を有するが、それへの注力と支援体制を、厳しい財政事情ではあるが、適切に構築すれば、大いに事態を変えるものとなる!何故なら、現在においても、彼/彼女らの活躍は目覚ましく、その意欲も含めて、その可能性は大いにあると思うからである（少なくとも、私が出会った人達はそうである!）!だが、現状では、彼/彼女らは、人数的には圧倒的に不足しているし、その活動状況は、ほとんど限界にまで達している?!しかも、個々人の意欲や能力（経験値を含む）にも、やはり限りがあるのであり、新たなシフト・体制（態勢）づくりが急務なのである!そういうことである!では、どうすればよいのか?

そこに、改めて期待できる人達がいる?!それが、現行の「社会教育主事講習」修了者や大学等で、それに相当する課程を履修した者（社会教育主事資格保有者→「社会教育士」の称号を名乗ることができる!）である!後者は、それ自体では、なかなか、いわゆる即戦力とはなり難いが、前者は、多くは、行政等の正規職員ではないが、内なる思いと意欲を有した有望な人達である（経緯としては、そうでなかった人もいるようである?）。例えば、退職行政職員や教職員（管理職経験者含む）である!単なる、自己の「生涯学習」として、それを実行している人もいるようであるが、きっかけやいい動機づけがあれば、それに止まらない意義と可能性を

有している！大いに鼓舞し、活用すべきなのである（上から目線で申し訳ないが）！

さらに、一方でまた、最近、その存在を半ば失念していたが、例えば、民間資格であるが、「生涯学習コーディネーター」（文科省認定社会通信教育「生涯学習指導者養成講座」修了生／一般社団法人実務教育研究所実施）という人達もいる！もちろん、私自身は、そうした人々の資格取得状況を、これも具に知っているわけではないので（他ならぬ、地元の〇県においても！）、彼／彼女らの動向（活躍・活用状況）は分からないのであるが（かつては、大いにいたことを覚えている！）、そうした人達の思いと力の結集が、社会教育主事の発令・活躍状況が芳しくない現状においては、改めて意義と可能性を有しているとも言えるわけである！

しかるに、問題は、上記のような人達が、ある意味無数に？いる（ことが分かっている）にしても、互いが、その存在を知らず、折角の思いや能力を共有し合っていないということである！本来ならば、少なくとも当該市町村レベルで、彼／彼女らの動向（資格取得状況を含む）が把握され、その顔合わせやネットワークづくりが行われていればよいのであるが（実際には、幾つかの市町村では、それがなされているかもしれないが？また、私的なつながりはあるのかもしれないが？）、そこまでには至っていないのが実情なのではないだろうか？願わくば、そうした働きかけや、いわゆる研修の機会が設けられ、可能ならば、全県レベルでの状況把握、ネットワークづくりが期待されるわけである（ちなみに、〇県では、国立教育政策研究所社会教育実践研究センター主催の「社会教育主事講習」の地方会場となっている「生涯学習推進センター」が、同講習修了者の研修（「フォローアップ研修」）やネットワークづくりを企図していたが、現在は、その後の情報が届いていない？）！

### **(3) ならば、どのような新たなしくみ・形が期待されるのか?! 「教育協働」への確かな道筋！**

ということで、以上は、そういう人達の、言わば「縦横」の繋がり、ネットワークづくりが、今こそ必要なのではないかということであるが、現状では、なかなかうまくいっていないのではないかということである?!であれば、これもまた、再三再四述べているように、誰でもいい、どこからでもいい、まずは、誰か（どこか）が、言わば「言い出しっぺ」となって、そのためのしくみづくりと有為な働きかけを、鋭意行っていく他ない！たとえ、時間はかかるとも？そして、それが、行政を動かし、学校現場を動かしていくことが出来るならば、それが、今は最善（最速？）の策となる?!正直言って、私は、そう思うのである（あたかも、それは、かの「ドン・キホーテ」のように？苦笑？）！

そこで、ここからは、曲がりなりにも私が続けてきた「教育協働」の提唱と、その実現のための、一部の賛同者・共感者への細やかな働きかけである「教育協働セミナー→教育協働アカデミー」の今後を、それに即して述べていきたいと思う！だが、これは、まだまだ私自身の脳内プラン？ではある！したがって、具体的なアクションは、これからの「アカデミー」の開催状況に大いに左右されることは言うまでもない?!ともあれ、それはそれでよしとして、ここでは以下、その「脳内プラン？」について、少し披歴しておきたい！

まずは、取りも直さず、これまでのセミナー／アカデミー参加者（基本的には県内在住者）に呼び掛けて、それらの皆さんと共に、いわゆる関係者のフランチイズづくりを試みるということである！その場所等については、これから詰めていくことになるが、ある人（「教育協働アカデミー」のコアメンバーの一人）の新たな活動場所（これは、かなり有望か？）や、厳しい運営状況ながら、「学びつなげる地域づくりを考える事例発表セミナー」を、（かろうじて？）主催事業（私の「教育協働研究所」との共催）として行っている「県立T青少年の家」がある（こちらは、社会教育関係者の「ハブ」を目指しているようでもある？）?!いずれにしても、そこが、気軽で、日常的な出会い・情報交換の場となっていくことが重要だということである！もちろん、それは、物理的・直接的な出会いの場づくりということであるが、昨今のDX化の進展の中での、各種の発信ツール（ズーム等）を活用したネットワークという意味でもである！要は、多くの関係者の出会い・関係づくりが、今まさに急務だということでもある！

末尾に、私は、これまで（36年間に亘って！）、「おきなわ自由大学」という、途方もない構想（スローガン）を掲げて（もちろん、自己満足ではあるが！）、各種各様の働きかけを行ってきたが（ゼミ生達や時々の賛同・参画自治体等の理解と協力を得て？→移動セミナーや当地の講座開催への協力等）、その精神は、今もなお持ち続けている？否、そのつもりである?!ただし、時代は変わった！年も取った！私自身の立場や力も、ほとんどなくなった（悲しいかな！それは、真実である！大笑?!）！だが、ここで書いてきたようなことが、何らかの形で実現していくならば、これほど嬉しいことはない！

何だか、ある種の遺言みたいな語りとなったが（何人かのコアメンバーには、機会あるごとにそう言い続けている？笑）、もう少しで、新たな年度（2026年度）が始まる！私自身は、何も変わらず、淡々とそれを迎えるわけだが、人によっては、新しい職場、新しい環境が待っている！人事異動や新採用というものがあるということであるが、一人でも多くの賛同者や協力者が出てくることを願っている！そして、我が「教育協働研究所～岳陽舎～」への来訪を、心待ちにしている！そういうことである！（つづく）